

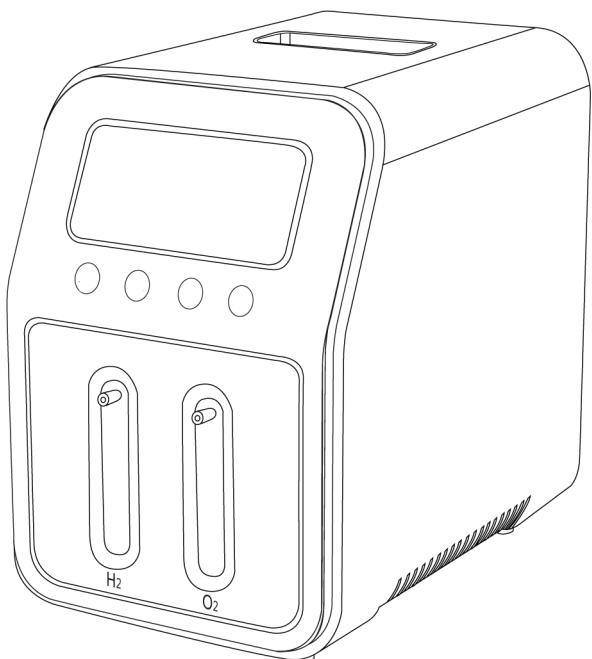
取扱説明書

水素吸入器

AQUA RIETTA

AQY-600

Made in Japan



株式会社
CNB医薬研究所
息苦しさを、心地よさに

目次

1 主な機能と特徴	3
2 安全上のご注意	4
3 ご使用上のお願い	5
4 各部の名称	6
5 ご使用前の準備	8
6 ご使用方法	10
7 補充・交換の時期	12
8 お手入れ方法	13
9 こんなときは	14
10 仕様	15
お問い合わせ	15
保証書	

- ご使用前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用くださいよう
お願い申し上げます。
- 本取扱説明書を製品の近くに保管し、いつでもご活用できるようにしてください。



ご注意

最初のご使用前に以下の準備を行ってください。

電源を入れずに、精製水※1を満水まで入れて **5時間以上** 放置してください。※2

その後、本体を**3時間以上**連続運転してください。

※1 必ず精製水をご使用ください。

※2 3ヶ月以上ご使用にならなかった場合、再度上記の準備を行ってください。

1 主な機能と特徴

○最高純度の水素体験

99.995%を超える最高純度の水素体験を提供いたします。

○大量の水素発生量

最大水素発生量は、1分当たり600mL±10%です。

1分当たり発生量は、150mL、300mL、600mLを選ぶことができます。

○水素だけでなく酸素も吸入可能

接続口が2口の専用チューブを使用することで水素酸素の混合吸入ができます。発生する酸素発生量は水素発生量の50%となり、600mL/分の水素量での酸素発生量は、1分当たり300mL±10%です。

○コンパクトサイズで持ち運び簡単

場所をとらないサイズで重量はわずか5.6kg(本体のみ)。

取っ手付きで、寝室やリビングルームなど、どこにでも簡単に持ち運び設置することができます。

2

安全上のご注意

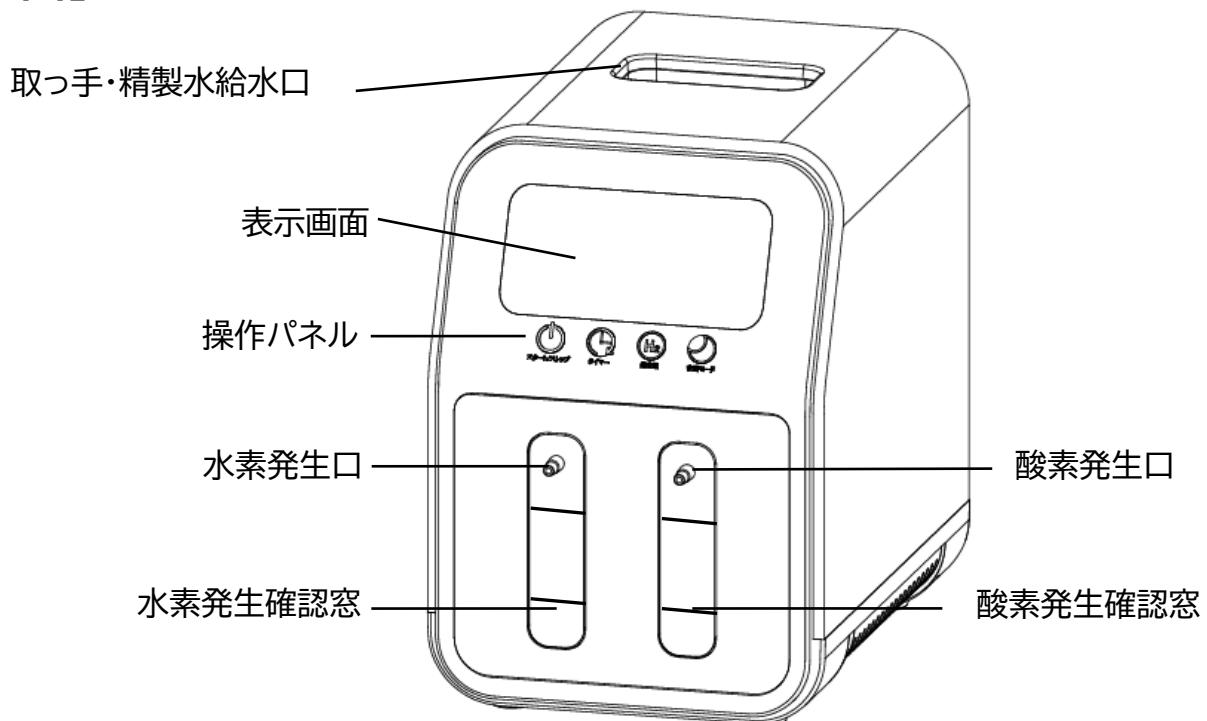
	警告 死亡または重傷などを負う可能性が想定される内容
 火気厳禁	火気厳禁。水素は熱によって膨張し、わずかな火気でも燃焼しやすく、可燃性ガスと混合すると燃焼・爆発を起こしやすくなるためです。
 必ず守る	本製品の使用中または使用後に気分が悪くなった場合は、すぐに使用を中止し、医師にご相談ください。
	注意 傷害を負うまたは物的損害が発生する可能性が想定される内容
 必ず守る	換気の良い場所でご使用ください。本体の後部には冷却ファンが内蔵されています。他の物に接触しないように設置してください。
 必ず守る	本製品の表面が濡れた場合は、拭き取ってから再び電源を入れてください。
 必ず守る	本製品を不安定な場所に設置すると、転倒して精製水がこぼれる恐れがありますので、必ず平らな場所で使用してください。
 必ず守る	異常を検出したときには、表示画面のランプが点灯します。 14ページ「9 こんなときは」に記載されている通りに問題を解決してから、ご使用を再開してください。問題を解決できない場合は、販売店にご連絡ください。
 必ず守る	お子様が本製品をご使用される場合には、必ず大人の方の補助と付き添いのもとでご使用ください。
 必ず守る	チューブ類の末端はしっかりと挿し込んでください。 チューブがしっかりと接続されていないと、水素が漏れてしまいます。

3 ご使用上のお願い

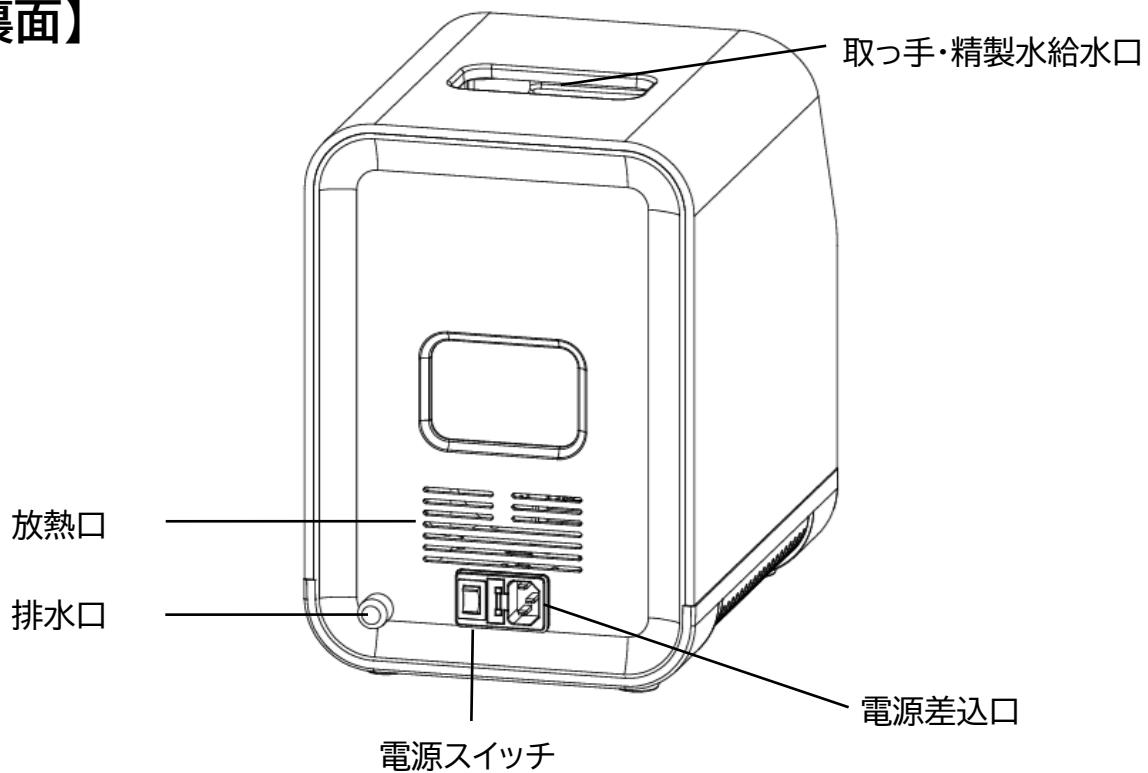
- 1 必ず日本薬局方の表示のある精製水をご使用ください。
他の水(ミネラルウォーターなど)を入れると、表示画面の「水質異常」ランプが点灯しエラーになります。
- 2 純水タンク内の精製水水量が不足すると、表示画面に「水量不足」ランプが点灯しエラーになります。精製水の最低必要量は、約900mLです。約1500mL(500mLボトル約3本分)で満水となります。
- 3 本体前面のガス生成確認窓の精製水は満杯になる前に捨ててください。
満杯の状態で利用すると、ノーズチューブに水が逆流することがあります。
- 4 ノーズチューブは、実際の使用頻度に応じて交換することをおすすめします。
- 5 ノーズチューブは、内部と外部の温度差により内部が結露することがあります、異常ではありません。
ノーズチューブを軽く振るか、よく乾かしてから使用してください。
- 6 お買い上げ直後のチューブ類は固く挿しづらいときがありますが故障ではありません。
- 7 持ち運ぶときには、純水タンク内の精製水がこぼれないよう本体が垂直な状態でお持ち運びください。
- 8 運送するときは、必ず純水タンク内の精製水を排水してください。
- 9 運転直後、純水タンク内の精製水は高温のため、排水は必ず運転停止後30分以上たってから行ってください。

4 各部の名称

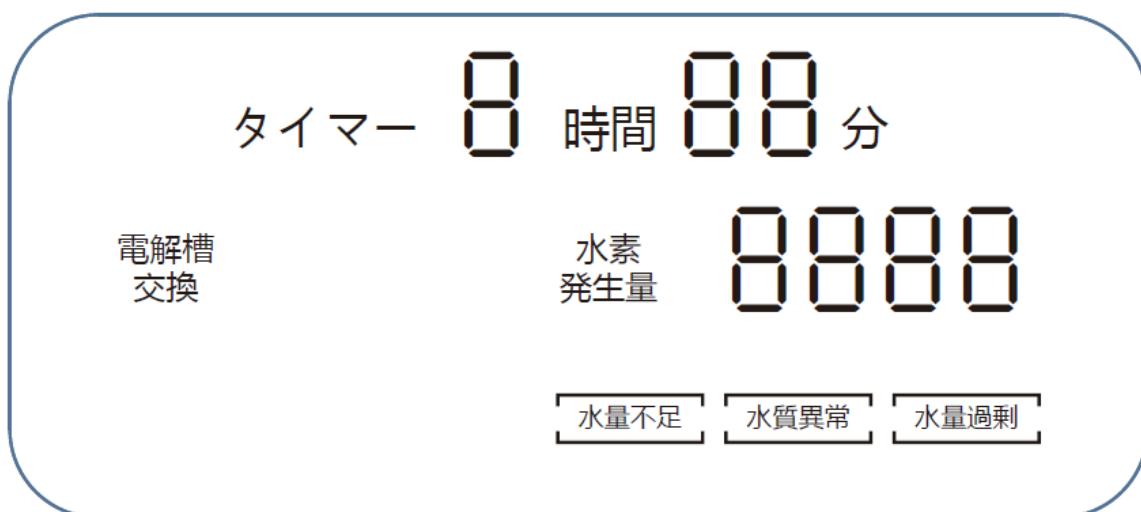
【正面】



【裏面】

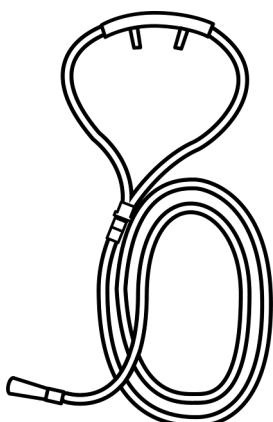


操作パネルと表示画面

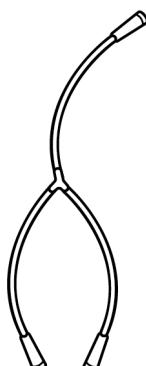


添付品

ノーズチューブ
(カニューラ)



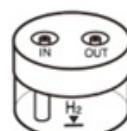
酸素水素混合管



連結チューブ



集水ボトル



本書

電源コード



5 ご使用前の準備

メモ

通常、新しく届いた製品本体内には、検品時に使用した水が少量残っております。これは不具合ではありません。機械内部を保護するために必要な水分です。最初のご使用前に、電源を入れずに精製水を満水まで入れて**5時間以上**放置してください。

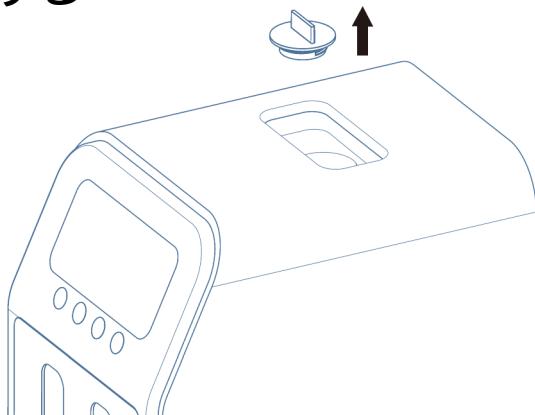
その後、本体を**3時間以上**連続運転してください。

1. 本体の給水タンクに精製水を給水する

給水タンク蓋を反時計回りに回して開けます。

精製水を給水します。

満杯になると、「ピー」という警告音が鳴り、「水量過剰」ランプが点灯します。この時点ですぐに給水を停止すれば、問題なく本機を使用できます。

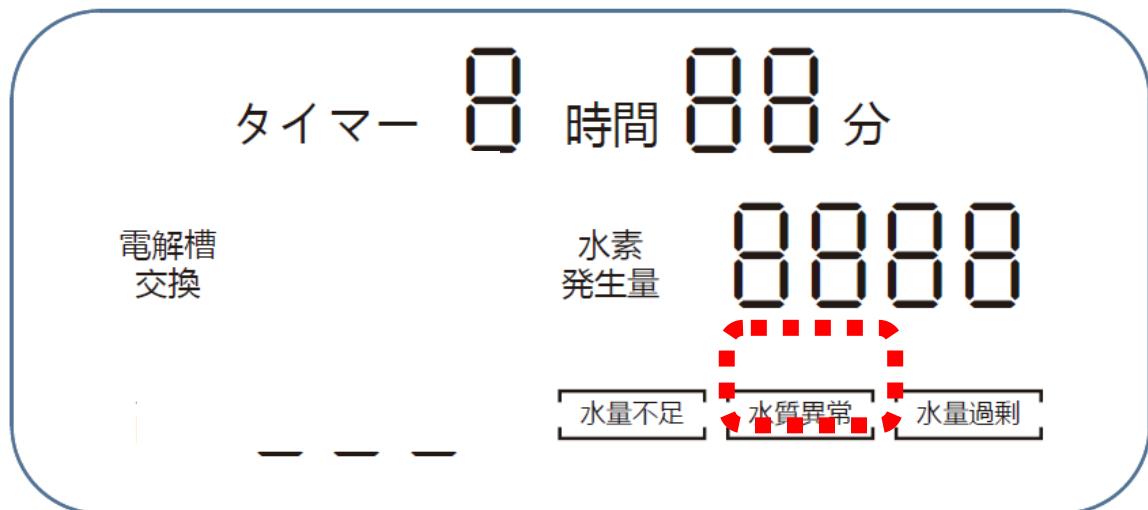


メモ

水量は約1500mL(500mLボトル約3本分)で満杯となります。

注意！

- 酸素が逃げないように、給水後、必ず給水タンク蓋をしっかりと閉めてください。
- 必ず精製水のみをご使用ください。他の水(ミネラルウォーターなど)を入れると、表示画面の「水質異常」ランプが点灯し、エラーになります。

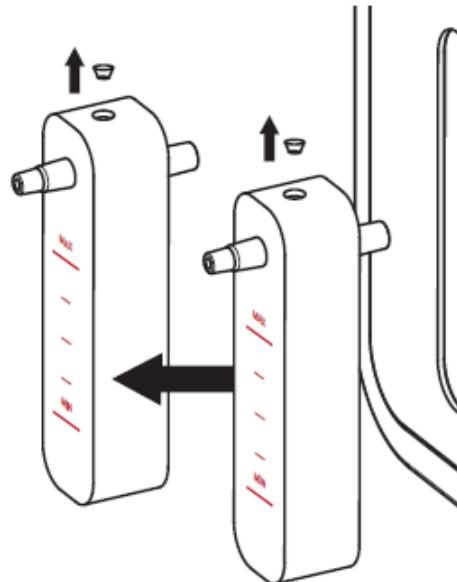


2. ガス生成確認窓に精製水を給水する

本体正面のガス生成確認窓を取り外し、上部ゴムキャップを開け、各々に精製水を「MIN」ラインと「MAX」ラインの間の高さまでまで注入します。

ゴムキャップを閉め、ガス生成確認窓を本体に戻します。

- * 運転中はここで水素と酸素が発生していることを確認できます。
- * ガスの温度・湿度を調整するためにも使用されています。



注意！

- 給水後は、ガスが逃げないよう元の場所にしっかりと設置してください。
- 上部ゴムキャップの紛失にご注意ください。

メモ

運転中、ガス生成確認窓や外部加湿ボトルの精製水が減ったり、または増えたりすることがあります。これは不具合ではありません。

水位を「MAX」ラインと「MIN」ラインの間に保つよう、精製水を補充または排出してください。

3. 電源コードを接続する

電源コードを本体の電源差込口と電源に接続します。

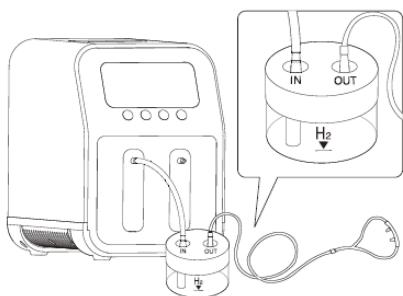
6 ご使用方法

1. 連結チューブ、集水ボトル、ノーズチューブを接続する

水素のみの吸入の場合

連結チューブを水素発生口と集水ボトルの「IN」側に接続します。

ノーズチューブを集水ボトルの「OUT」側に接続します。



あごの下でストッパー
を上げて調節します。



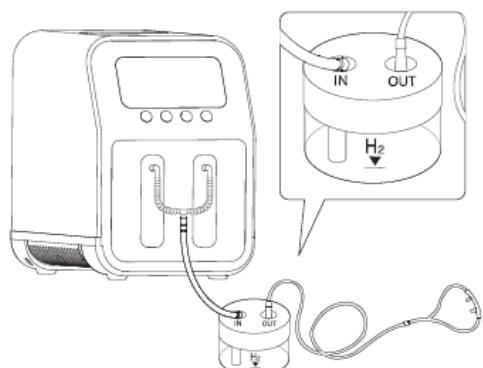
INとOUTを逆に接続した場合、集水ボトル内の精製水がノーズチューブ内に流れ込み、鼻に入る恐れがありますので、くれぐれもご注意ください。

水素・酸素混合吸入の場合

酸素水素混合管を本体の水素と酸素発生口
に、もう片方を連結チューブに接続します。

連結チューブを集水ボトルの「IN」側に接続
します。

ノーズチューブを集水ボトルの「OUT」側に
接続します。



混合吸入する場合でも、水素の発生量は変わりません。

2. 電源をOnにする

本体裏面にある電源スイッチを(電源差込口の隣)押してONにしてください。

メモ

電源スイッチをONにすると、いったんLEDが全点灯した後、バージョン記号が表示されます。

これは、LEDが正しく表示されるかどうかをチェックするためと、プログラムのバージョン番号を簡単に確認することができるよう設定してあります。不具合やエラーではありません。

3. 水素発生量を調整する

「発生量」ボタンに軽くタッチして水素の発生量を調整します。

「発生量」ボタンに繰り返しタッチすると、600mL→150mL→300mLと順に切り替わります。

4. タイマーを設定する

タイマーをセットするときは、「タイマー」ボタンに繰り返しタッチすると、15分→30分→1時間→2時間→4時間→8時間と順に切り替わります。

5. 本体を起動させる

「スタート/ストップ」ボタンに軽くタッチすると本体が起動します。

6. 途中で一時停止したい場合

「スタート/ストップ」ボタンに軽くタッチすると、本体が一時停止します。

再開したい場合は、もう一度「スタート/ストップ」ボタンに軽くタッチしてください。



7. 途中で夜間モードに切り替えたい場合

「夜間モード」ボタンにタッチすると、
本体とパネルの電気が消え、夜間モードに入ります。
正常に戻したい場合は、もう一度「夜間モード」ボタンに軽くタッチしてください。

8. 電源をOffにする

「スタート/ストップ」ボタンに2秒長押してOffにしてください。

7 補充・交換の時期

品名		時期	備考
給水タンク の精製水	補充	使用方法により適宜	使用量は、ガス発生量・使用環境・使用頻度により異なりますが、精製水タンク満杯(1500mL)から、水素発生量600mL/分の連続使用で約11時間の吸入を行えます。 不足すると、表示画面に「水量不足」ランプが点灯しますので補充してください。
	交換	2週間	毎日のお手入れは不要ですが、長期間(2週間以上)空いてから再度使用する場合は、中の精製水を一度捨ててからご使用ください。
ガス生成 確認窓の 精製水 集水ボトル の精製水	交換	2週間	ガス生成確認窓と集水ボトルはガスの温度・湿度を調整するために使用されています。 利用中に水が満杯になりそうなときは、排水をしてください。また、使用頻度に関わらず、2週間ごとに新しい精製水に交換ください。
チューブ類 (ノーズ チューブ、酸 素水素混合 管、連結 チューブ)	交換	1~2か月	衛生上、1~2か月ごとに交換ください。使用頻度が高い方は、1か月での交換をお勧めします。
電解槽	交換	4000時間	電解槽使用寿命を超えると、水素生成量が低下する可能性があります。 →販売店へご連絡ください。
フィルター	交換	4000時間	本機の精製水フィルターは内蔵式です。電解槽交換のタイミングで一緒に交換をお勧めします。

8 お手入れ方法

チューブ類

ノーズチューブ、酸素水素混合管、連結チューブは、衛生上、チューブ内に水滴が溜まつたままにしないことが望ましいです。

ポンプや電動式エアダスターで空気を吹いてチューブ内の水滴を飛ばすか、軽く振って飛ばしてください。(缶タイプのエアダスターにはジメチルエーテルが含まれていることが多いので、薬品の影響が気になりますから避けてください)。

日の当たらない場所にかけて十分に乾燥させてください。

ノーズチューブの鼻に直接触れる部分は、汚れが付きやすいので、こまめに水洗いしてください。

給水タンク

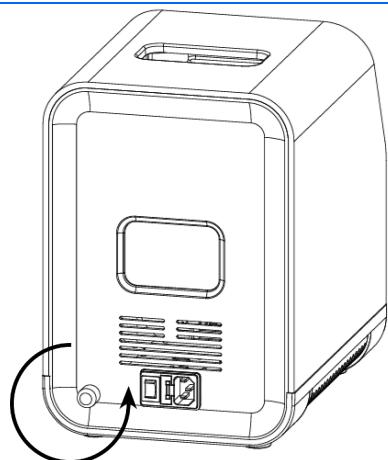
毎日のお手入れは不要ですが、長期間(2週間以上)空いてから再度使用する場合は、中の精製水を一度捨ててからご使用ください。

注意!

- 運転直後、給水タンク内の精製水は高温のため、排水は必ず運転停止後30分以上たってから行ってください。
- 排水しても問題がない場所で行ってください。
- 本体を落とさないようにご注意ください。
- 排水キャップを取ると水が勢いよく流れ出るため、排水キャップを紛失しないようにご注意ください。

■ 排水の方法

本体裏面にある排水口のキャップを反時計回りに緩めます。



9 こんなときは

エラー点灯	問題	解決方法
水量不足	給水タンク内の精製水が不足しています。	給水タンクに精製水を給水してください。給水後、エラー状態をリセットするため、「スタート/ストップ」ボタンを3秒間長押ししてください。
水量過剰	給水タンク内の精製水が1500mLより多いです。	精製水を給水時、「水量過剰」になつたら、すぐに給水を停止してください。水量過剰ランプが点灯しても、そのまま運転することができます。 大幅に精製水を過剰注入した場合、12ページ「排水の方法」により排水してください。
水質異常	給水タンクに精製水以外の液体を充填した、または長時間連續で同じ精製水を使用しています。	新しい精製水と交換してください。
電解槽交換	電解槽が規格寿命を迎えました。	販売店へご連絡ください。

問題	解決方法
ノーズチューブから水素が出ていない、または量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ノーズチューブ、ガス生成確認窓がしっかりと接続されているかご確認ください。 ■ 電解槽使用寿命に達している場合にも水素の発生量が低下します。販売店へご連絡ください。
ノーズチューブから酸素が出ていない、または量が少ない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ノーズチューブ、ガス生成確認窓がしっかりと接続されているかご確認ください。 ■ 酸素が逃げないように、給水タンク蓋をしっかり閉めてください。

10 仕様

水素純度	>99.995%
水素発生量	600mL ± 10% /分
酸素発生量	300mL ± 10% /分
定格	AC100-240V 50/60Hz 最大180W
外形寸法	W210X D310 X H305 mm
製品重量	約5.6kg
安全装置	精製水不足時自動停止 精製水不純物自動センサー
使用できる水	精製水(日本薬局方の表示があるもの)
製造国	日本

お問い合わせ

商品についてのお問い合わせ、アフターサービス(メンテナンス)、各種消耗品のご注文などにつきましては、お買い求めいただいた販売店にご連絡ください。

発行年月日 : 2025年9月10日

発行・製造元 : 株式会社 CNB医薬研究所

<https://aquarietta.jp>

本書の一部または全部を無断で転載または複製しないようお願いいたします。
本書の内容は予告なく変更することがあります。ご了承ください。